

【第2期】とやま呉西圏域都市圏ビジョン 骨子

1 圏域における広域連携

(1) 都市圏ビジョン策定の趣旨

昨今の人口減少・少子高齢化社会における地域の再生、創生を果すには、一定の規模と都市・生活機能を包括する広域的な地域において、人口や活力ある社会経済を維持することが重要です。

本ビジョンは圏域を構成する6市が持つそれぞれの個性・特性を活かし、圏域の発展に向けた新たな取り組みや、これまで進めてきた連携を更に深めることにより、圏域全体の経済成長や住民サービスの向上につなげる、中長期的な「圏域の将来像」を示す戦略として策定するものです。

(2) 連携中枢都市圏の名称及び構成自治体

- ① 都市圏：とやま呉西(ごせい)圏域
- ② 構成市：高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市



(3) 計画期間

2021年度(R3年度)から2025年度(R7年度)までの5年間

2 圏域の現状

(1) 圏域の概要

本圏域は、県中央部に位置する呉羽丘陵の西部、県内7大河川に数えられる庄川及び小矢部川流域並びにこれらの河川が注ぎ込む富山湾の沿岸部に広がる約1,500km²のエリアです。古くから舟運、海運のネットワークにより地域経済を進展させ、広域的な交流を広げてきた本圏域は、現在も、圏域内での通勤・通学など一体的な経済・生活圏を形成してきました。

日本海側の総合的拠点港である伏木富山港や北陸自動車道、東海北陸自動車道、能越自動車道といった高速道路網、北陸新幹線などの広域交通・物流網を背景に、環日本海に向けた交流拠点としての存在感を有しています。

【圏域の特色・強み】

○産業

・臨海工業地域を中心にアルミ、鉄鋼等の金属製品や繊維、化学工業等が集積。高岡銅器や井波彫刻等の伝統産業も発達。

○観光・交通

・世界文化遺産「五箇山合掌造り集落」、倶利伽羅源平古戦場、大境洞窟住居跡、国宝「瑞龍寺」、高岡御車山祭、城端曳山祭、高岡・山町筋、井波・城端の門前町、日本海側最大の斜張橋「新湊大橋」、海王丸パーク、ひみの海探検館、砺波チューリップ公園など、多くの歴史・文化的な観光資源。

・北陸新幹線、北陸自動車道、東海北陸自動車道、能越自動車道、伏木富山港等の広域交通・物流基盤整備に伴う東海・飛騨地方、石川県、福井県等の交流拠点。

○農林水産

・チューリップ球根、干柿、種もみ、ハトムギ、コシヒカリ、マグロ、寒ブリ、シロエビ、ベニズワイガニ、ホテルイカ、庄川あゆなどの全国的な知名度を誇る農林水産品。

(2) 圏域が直面する課題

若い世代の都市部への流出や出生率の低下等による人口減少と高齢化の進行、経済成長の低迷、それらに伴う中心市街地の空洞化

生産年齢人口の減少に伴う農林水産業、製造業を中心とする地域産業の衰退の恐れ

地域医療、地域の保健・福祉サービスを担う人材不足に伴う生活関連機能の低下

圏域の総人口と将来推計人口

※平成27(2015)年の国勢調査

(単位:人、%)

	総人口 ※		将来推計人口				増減率 (H27-R27)
	2015年 (H27)	2025年 (R7)	2035年 (R17)	2045年 (R27)	2045年 (R27)		
高岡市	172,125	161,299	145,494	131,477	▲23.6		
射水市	92,308	87,287	80,332	72,885	▲21.0		
氷見市	47,992	40,444	33,078	26,111	▲45.6		
砺波市	49,000	47,359	44,811	41,578	▲15.1		
小矢部市	30,399	27,077	23,574	19,891	▲34.6		
南砺市	51,327	44,626	37,832	31,017	▲39.6		
とやま呉西圏域	443,151	408,092	365,121	322,959	▲27.1		

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

全国平均(16.3%)を大きく上回る3割近くの減少！

3 圏域が目指す将来像

とやま呉西圏域の将来像

環日本海の中核拠点

本圏域が目指す将来像「環日本海の中核拠点」の実現に向けて、圏域の「人」、「強み」、「つながり」の活用・充実を大きな柱とした9つの基本方針に基づき、本圏域の連携中枢都市圏としての役割を果たすとともに、圏域各市の機能分担を図りながら、産業、観光、地域交通、医療・福祉等、各分野における連携施策に取り組みます。

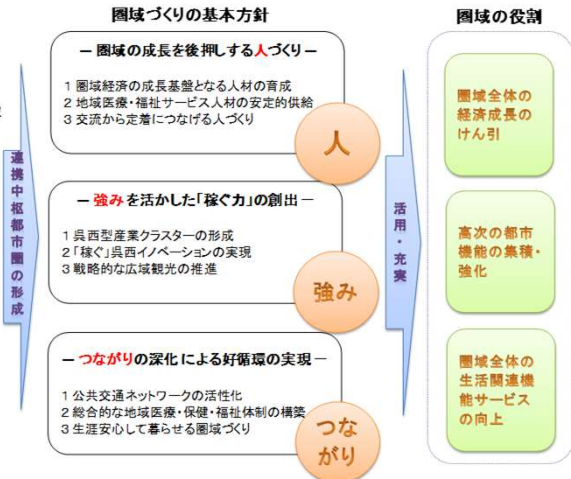
高速道路や鉄軌道、港湾等が集結する広域交通の結節点であり、国内のみならず、日本海対岸諸国も視野に入れた広域的な交流・交易拠点という圏域の特色を活かし、「環日本海の中核拠点」を目指します。

また、連携中枢都市圏としての拠点形成を活かした新たな取り組みや、これまで重層的に進めてきた各種連携プログラムの充実・強化、さらに、各市の総合戦略における人口減少対策などを網羅的に進めることにより、**30万人の人口規模(2060年(R42年)時点)を維持する圏域**の形成を図ります。

4 圏域づくりの基本方針

圏域が目指す将来像

環日本海の中核拠点



5 重点プロジェクト

新・5星(呉西)－NEW FIVE☆STAR－プロジェクト

新たな潮流への対応

◆SDGsのさらなる推進

◆Society5.0の実現に向けたIoT・AI、5G等未来技術の活用

1 地方創生熱源育成プロジェクト

6市が共同で実施する講座やワークショップ、技術学習により、呉西圏域の産業や観光等の各分野において活躍する地方創生熱源(人材)の育成を図る。

2 移住・定住サポート&関係人口創出・拡大プロジェクト

移住情報の発信から相談対応、各種プロモーション等、交流から移住・定住までの総合的な展開を図るとともに、圏域に継続的な関心とつながりを持ち多様な関わり方で応援する方々を増やすことにより、地域機能の維持を図る。

3 呉西の「稼ぐ力」増強・創造プロジェクト

アルミ製品製造等、圏域のものづくり文化や産業集積が持つ「強み」を伸ばすとともに、多彩な観光資源やブランド特産品、伝統産業など、呉西圏域の魅力発信や異分野交流によって新たな「強み」を創出することにより、活力に満ちた圏域づくりにつなげる。

4 広域的ネットワーク充実プロジェクト

圏域連携の軸である公共交通ネットワークのさらなる活性化のほか、生活環境の充実を図ることにより、市域を超えたつながりの醸成を図る。

5 未来につなげる地域共生プロジェクト

医療・福祉・介護の充実や環境保全の推進により、圏域内で支え合う連携を醸成し、地域共生社会の実現を目指す。